

花高同窓会会報



第116号

発行 平成30年11月20日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudosou/>

印刷 (株)大館印刷



支部便り

盛会裏に終わった 花栄会総会・懇親会

東京支部「花栄会」幹事長

根市 知宏(25期)

去る六月三十日(土)、第二十五回花栄会総会・懇親会が神保町の学士会館にて開催されました。参加者は総勢七十三名、うち平成卒業が十五名、女性が二十五名で、これまでになく初参加の方も多く、華やかで和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。

総会に続いて行われた小講演では、鹿角を舞台とした交響詩「鹿角を生きる」のビデオ映像を背景に、さいたま市消防音楽隊長など活躍中のブラスバンド部OBの阿部和博さん(26期)、恩師の前原正治先生から、それぞれ母校の思い出とこれまでの歩みについてお話をうかがいました。前原先生は、ご自身が作詞された交響詩「鹿角を生きる」の第三章の詩を朗読くださいました。

吉村アイ市議会議員(19期)からの乾杯のご挨拶で懇親会へと移りました。片岡俊仁校長、井上高廣同窓会長からは、母校の現状や鹿角三校高校統合に向けた取り組みについてご報告があり、次いで、秋高連会長の望月久氏(大館鳳鳴高校OB)、児玉均先生からスピーチを頂戴しました。アトラクションでは、

Cher'sの女性ボーカル青木千春さん(44期)がピアノの弾き語りでお

リジナル曲を披露し、高杉正副幹事長(41期)率いる結成五周年を迎えた鹿角ブラス!!メンバー九名と海外から参加の切田朋輝さん(49期)によるアンサンブル演奏が、阿部和博さんの指揮も加わり披露され、前原正治先生作詞、佐藤修一先生作曲の「花輪高校五十周年記念讃歌」、女学校校歌と高校校歌をブラス伴奏にて合唱しました。

PRタイムでは、黒澤仁悦さん(21期)、花輪からご参加いただいた阿部純一さん(44期)と安保朗さん(42期)から有用な情報提供があり、記念撮影後、応援歌とエールを交わして、三時間半にわたる同窓会も名残惜しくもフィナーレとなりました。

今回は二〇二〇年六月二十七日(土)、同じ学士会館にて開催の予定です。参加ご希望の方はいつでも事務局までご連絡ください(〒mail:neichimh@yahoo.co.jp)。再びおよび初めての皆さまにお会いできますことを、役員一同祈念しております。



平成31年度 総会開催のご案内

- 日時：平成31年5月11日(土)
- 場所：鹿角市花輪 鹿角パークホテル
- 会費：4,000円(懇親会費)

特色ある学校づくりのチャンス

同窓会長 井上高廣(18期)



同窓生の皆様には、いつも同窓会活動にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

鹿角地区の三高校の統合について、鹿角三高校の先生方が今年と来年の二年間かけて統合校の基本構想を検討しています。設置される学科、コースを始めカリキュラ

残り少ない花輪高校の支援と同窓会の発展を期すと同時に、統合後の同窓会をどのようにしていくのかを検討していかねければなりません。県内の既に統合した高校

からアンケート調査をして、新しい同窓会のあり方を考えていきます。各支部にも影響しますので多くの方から意見をうかがいながら進めていきたいと考えています。また、創立一〇〇周年を迎えられ

るかはつきりしませんが、周年事業あるいは閉校式の準備も進めていかなければなりません。今後とも母校と同窓会の発展にご支援をお願いいたします。

横顔 ●会長四期目●職歴：西仙北高校校長、能代高校校長●趣味：ゴルフ、スキー、旅行●特技：野菜作り●座右の銘：至誠力行

花高愛(I)D



校長 片岡俊仁

昨年度に引き続き、お世話になっております校長の片岡です。同窓会員の皆様には、日頃より母校の教育活動に対し、多大なる御支援、御協力を賜り心から感謝申し上げます。

花高勤務も二年目を迎え、いろいろな機会や場面において、かつ

ての教え子や同窓生の方々と触れ合うことが多くなりました。今年の六月には、東京で開催された花栄会総会に出席させていただきましたが、会場の雰囲気、講演、歌とブラスの共演と、どれも素晴らしいものばかりで感動いたしました。田村勝俊(9期)会長様を始めとします会員の皆様には、紙面をお借りしてお礼申し上げます。今年度、花輪高校は「花高愛(I)D」を掲げ、「文武両道の実現」「人間力向上」「THINK GLOBALLY、

ACT LOCALLY】「地域貢献」を柱として、目指す生徒像「チャレンジし続ける花高生」「自ら考え、判断し行動する花高生」の実現に向けて教育活動に取り組んでいます。生徒も職員も花高を愛すること、皆さんから愛され、信頼される学校を目指してまいります。会員の皆様の温かい御支援と御協力をお願いいたします。

横顔 昭和三十七年生まれ。新潟大卒。平成二十三年から大館鳳鳴、秋田、十和田、大館桂桜各高校の教頭を経て、平成二十九年より花輪高校校長。趣味はフリンク。座右の銘は「不易流行」「凡事徹底」等。

第6回

同窓会 ゴルフコンペ

十月十日、大館カントリークラブにおいて第六回同窓会ゴルフコンペが十二名の参加者により開かれました。心配された雨も降らず無風状態の、絶好のゴルフ日より、新ペリアの結果、優勝は佐藤隆夫(19期)、二位山田徹弘(26期)、三位神田昭治(20期)となり、ベストグロス賞は畠山強(18期)でした。



～同窓会の動きとして～

昨年から副幹事長を仰せつかっています。鹿角地域の高校統合については避けられない状況にありまして、その時期や場所等については、現在、県行政に預けられている状態です。同窓会の役員としては、創立百周年を迎えられるものか、閉校式が先になるのか気になるところです。



統合時とすれば、その後の同窓会のあり方、会費、予算等についても検討するべき大きな課題があります。

副幹事長 山田良志(34期)

ホームページについては、フェイスブックの利用も考え委員会で思索しているところですので、アドバイスをお寄せください。各同窓会支部での活動に期待し、本会の総会への参加をよろしくお願いたします。

平成30年度総会

今年度の総会が五月十二日(土)に鹿角パークホテルで開催されました。学校からは県北総体のお忙しい中、片岡校長先生、石上教頭先生、石井事務長さん、総務主任大野先生の四人に来ていただき、総勢三十六人が参加しました。前半では決算・予算や事業報告・計画などが審議され承認されました。後半は、関厚さん(24期)による山菜についての講演がありました。関さんの講演を聴きに外部の方も来場していました。その後の懇親会も大いに盛り上がりました。来年は五月十一日(土)に開催予定で、役員改選の年になります。皆さんの参加をお待ちしています。

総会記念講演

「山菜」の誕生と展開



鹿角産業文化研究所

関 厚(24期)

1 山菜以前

現在の「山菜」は、どのように呼ばれていたのでしょうか。二六〇年前の『万葉集』(七五九年)は雄略天皇の「この岳(おか)に菜摘ます児」で始まります。『古今和歌集』(九〇五年)には百人一首で有名な「君がため春の野にいでて若菜つむわが衣手に雪はふりつつ」(光孝天皇)が登場します。若菜摘みは生命力の象徴である萌え出る若菜を食し一年の健勝を祈る儀式を詠んだものと言われています。しかし「山菜」はありません。

2 江戸時代から明治の辞典、辞書

一六九七年の『農業全書』(宮崎安貞著)では芹、野蜀葵(ミツバ

3 「山菜」の誕生

「山菜」は突然、使われ始めました。昭和十八年(一九四三年)

4 まとめ

「山菜」は疎開した人たちにふ

セリ)、蓼、蕨、土筆などについて、「山野菜の類」としています。江戸時代の百科辞典である『和漢三才図会』(寺島良安著)でも「山菜」はありませんでした。

一七一三年の『養生訓』(貝原益軒著)に「もろこしには、神を祭るに園菜を用いずして、山菜、水菜を用ゆ」として初めての山菜が使われました。中国古典からの引用で、肥だめの肥料を使う菜は神事には使っては、ならないというものでした。

しかし、この「山菜」は広まらず、明治の国語辞典のベストセラー「大言海」にはなく、昭和前期の「大辞典」にも採録されず、昭和二十六年(一九五一年)までの国語辞典、漢和辞典、料理本には「山菜」はありませんでした。

の民俗学者向山雅重さんの『続山村小記』です。実は昭和十六年、植物学者牧野富太郎さんが「野生食用植物の話」をラジオ講演した際、「山菜」を使っていたのです。牧野さんは貝原益軒の研究者で、激しさを増す戦争では野生植物を「菜つ葉飯」、「加て飯」として利用しようという内容でした。野菜は山菜を含む概念でしたが、栽培植物以外の野生植物としての山菜でありました。

るさとのつよい印象を与えました。高度経済成長で、ふるさととのつながりも希薄になりつつある中で「山菜」に、そのさずなを求めることとなりました。料理研究家本山荻舟さんは昭和三十年前後に山菜料理を都会の料亭へ出したと語っています。食物学者篠田統さんが「山菜・野草の区別は曖昧で、しばしば料亭の都合に左右される。」と書いているのは、その辺の事情でしょうか。

現在の「山菜」には救荒食物というより、若菜摘みや茸狩り、喜びとしての、ふるさとを思い出させるような意味が込められています。価値の変化による発展が込められています。



花高祭で写真展示

六月二十四日(日)に行われた母校の文化祭で、昨年に引き続き図書館前の廊下に写真を展示しました。これは九十周年に展示された花高の歴史を物語る写真を再展示したものです。学校があんとらあの場合にあった時代のものから現在の場所に移った旧校舎のものや、現校舎になってからの写真など、懐かしさが染み出ており、多くの人が足を止めて見えています。

「むがしっこ」に
魅せられて

鹿角民話の会(とつとはらえ)会長
北村 正人(22期)

鹿角民話の会「どつとはらえ」は平成五年に市民の有志により結成されました。名称の「どつとはらえ」は、民話の最後を飾る決まり文句。旧南部藩領では「どんとはれ」又は「どつとはらえ」、秋田藩領では「とつびんばらりのぶう」など、その土地特有の言葉で語りを締めくくります。

私は結成当初からの会員で、初代会長の故高橋節夫さんから勧められ軽い気持ちで入会し、一昨年に三代目会長となりました。会の活動は主に鹿角に伝わる民話や伝説の収集と研究、自ら語り部として求めに応じて語る、定期公演である「むがしっこ」の集いの開催など。その他、県全体の組織である「あきた民話の会」関連行事への参加もあります。

入会当初は軽い気持ちでいたものの、「むがしっこ」を覚えるにつれ次第にその魅力に引き込まれ、活動を通して多くの方と知り合い、地域の先人が残してくれた無形民俗文化財とも言えるべき「むがしっこ」の価値を知ってからは、なんとしてもこの貴重な口承文化



を残さなければならぬとの自覚が出てきました。また、語りの面白さも感じてきました。

現在の会員は男性十人、女性五人の十五人。四十歳代から九十歳に近い方まで幅広い年齢層と、現役からリタイア組まで経験や経歴も様々な方々で構成されています。ですから活動もさることながら、そんな方々と交流し一つのことを仕上げるのが何より楽しいですし、それが会の最大の魅力だと思っています。

仕事を定年まで続け「さて今後の生きがいは？」と考えたとすると、私の場合はこの会に入っていたことにだけ助けられたか分かります。現役の時から退職後に何をしたいか、何ができるかを後輩の方々には今から考えてほしいと思います。今の私は「むがしっこ」を通して自分を磨き、みんなが楽しんでくれる「生きがい」を持ち得たことに心から感謝しています。

縁が輪になる
大湯のえんがわ

浅利 裕子(43期)

平成三十年四月にオープンした「道の駅おおゆ(湯の駅おおゆ)」の駅長を務める浅利です。このよ

うな形で同窓会報紙に寄稿することになるとは、人生何があるかわからない、と恐縮しつつ、当駅のご紹介をいたします。

平成29年度 同窓会決算書

単位:円

収入の部	本年度予算額(A)	本年度決算額(B)	増減(B)-(A)	摘要	28年度決算額
1. 会費	1,480,320	1,719,200	238,880		1,808,800
(1) 会費	900,000	1,145,000	245,000	同窓生会費	1,204,000
(2) 入会費	580,320	574,200	△6,120	@1,440円×400人(未収金あり)	604,800
2. 繰越金	734,462	734,462	0		546,180
3. 繰入金	0	0	0		2,283,945
4. 諸収入	218	7,193	6,975	名簿販売、花高祭総菓子販売他	153,253
合計	2,215,000	2,460,855	245,855		4,792,178

支出の部	本年度予算額(A)	本年度決算額(B)	増減(B)-(A)	摘要	28年度決算額
1. 会議費	70,000	33,708	△36,292	総会費用他	46,010
2. 会務費	770,000	552,643	△217,357		702,774
(1) 旅費	140,000	10,212	△129,788	秋田支部総会出席旅費	120,296
(2) 消耗品費	10,000	9,395	△605	事務用品等	10,000
(3) 通信費	550,000	484,376	△65,624	同窓会会報発送費等送料	516,808
(4) 振込手数料	70,000	48,660	△21,340	会費振込手数料	55,670
3. 事業費	440,000	380,313	△59,687		388,330
(1) 印刷費	330,000	320,753	△9,247	会費振込用紙、会報(2回)	306,108
(2) 記念品費	60,000	52,850	△7,150	卒業記念品(印鑑ケース)	55,512
(3) 広告費	30,000	6,710	△23,290	高校野球応援広告	6,710
(4) 広報費	20,000	0	△20,000		20,000
4. 渉外費	30,000	0	△30,000		20,000
(1) 渉外費	10,000	0	△10,000		0
(2) 慶弔費	20,000	0	△20,000		20,000
5. 助成費	600,000	540,000	△60,000		585,000
(1) 部活動助成費	350,000	340,000	△10,000	インターハイ激励金、部活後援会助成	335,000
(2) 進路指導助成費	150,000	150,000	0	PTA進路指導助成	150,000
(3) 支部助成費	100,000	50,000	△50,000	関西支部、秋田支部	100,000
6. 備品費	14,000	12,636	△1,364	卒業アルバム	12,722
7. 積立金	200,000	200,000	0	定期預金	300,000
8. 繰出金	0	0	0		2,000,000
9. 雑費	2,000	0	△2,000		0
10. 予備費	89,000	1,440	△87,560	過年度分入金会返金	2,880
合計	2,215,000	1,720,740	△494,260		4,057,716

収入総額	2,460,855
支出総額	1,720,740
差引残額	740,115

定期預金(H27積立分)	400,119
定期預金(H28積立分)	300,026



「大湯えんがわかフェ」の軒下にある足湯は大湯温泉源泉かけ流し

杉をはじめとする秋田県産材を数多く用い、山々に囲まれた温泉郷の風景に溶け込むようなデザインです。また、館内に多く使われたのが「円筒LVL」と呼ばれる部材で元々は長い筒状の柱を輪切りにし、装飾として、構造、家具として使われています。

隈氏による設計コンセプトは「賑わいを生み出す まちのえんがわ」。温泉郷の風景をえんがわでんびり眺めるような、温泉に浸かった時の心身がほぐれるような空間づくりを目指した設計となっており、円筒LVLによる「輪」は「交流」や「縁」、「つながり」といった人と人とが交わっていくイメージも表現されています。私たちはこの想いを受け継ぎ、運営コンセプトを「縁が輪になる 大湯のえんがわ」とし、毎日行き交うお客様、スタッフ、商品等とのご縁をつないでいく取り組みを進めています。

ぜひ一度足をお運びいただけると幸いです。心よりお待ちしております。